



環境カウンセラー(事業者・市民部門)
NPO法人自然環境復元協会 理事
藤野環境計画 代表
藤野 耕一

私はここ数年、荒川化学の「環境・社会報告書」に第三者意見を述べてきたが、毎年発行される報告書の内容は着実に進化してきている。今回の報告書は、第2次中期5ヵ年経営計画の初年度(2008年度)の成果をできるだけ幅広く、各種データをわかりやすくまとめ、随所に担当者のコメントを入れて、読みやすく、丁寧に作られた報告書となっている。

冒頭のトップメッセージでは、2008年度下期からの厳しい世界的経済不況下において、2009年度はピンチをチャンスとして、新しい発想で企業価値を生み出し社会貢献を図るとし、新しく温室効果ガスの削減策や各企業に対して環境負荷低減に役立つ化学製品の提供を積極的に推進すると明言している。このような企業姿勢は、厳しい経済不況・環境負荷低減などを制約ではなく事業展開の好機と考え、時代を先取りしてこれらに果敢に取り組む企業行動で、社会から信頼される、それがCSR(企業の社会的責任)の基本だと考える。

荒川化学の製品の主原料は、松から採取し精製した「ロジン」と呼ばれる天然樹脂で、植物由来の原料であるため、化学原料と違い環境負荷が少なく、バイオ原料として優れた環境特性を持っている。この特性を活用して先進的な技術開発(グリーン・サステイナブル・ケミカルプロセス基盤技術開発)にも積極的に取り組んでいる。

また荒川化学の製品は、天然素材「ロジン」という環境特性を生かし、製紙、印刷インキ、塗料、接着剤、はんだ材料、医薬品など多くの分野に導入され、そこから生み出されるさまざまな製品のグリーン化に広く貢献している。今回の報告書でも紹介されている「鉛フリーはんだ」より一歩進んだ「ハロゲンフリーはんだ」やパソコン、家電などの熱対策としての放熱塗料「ペルクール」や紙の強度向上と製紙工程の省エネ・省資源に貢献する薬品「ポリテンション1000」などの新製品開発を行い、一般消費者に供給される各商品のグリーン化に欠かす事のできない中間化学材料を長年にわたり商品メーカーに供給している。これらの優れた事業活動は大変評価できることである。

第三者意見を受けて

環境カウンセラー NPO法人自然環境復元協会 理事 藤野環境計画 代表の藤野耕一様より第三者意見として、率直かつ貴重なご意見を頂戴いたしました。深く感謝申し上げます。

荒川化学の製品は直接一般の方の目に触れる機会が少ないため、「環境・社会報告書」の作成において、事業内容をご理解いただくことにも腐心して参りました。その一環として、今回は、ロジンの品質管理ということに焦点を当てて特集記事を組みました。この点を評価いただきましたことは、今後の取り組みに大きな励みとなります。

今回の報告書では、天然素材「ロジン」の品質管理について、原産地中国と日本における厳しい管理体制を詳しく紹介している。さまざまな不正・疑惑の多い今日、企業としてこのようなテーマを取り上げ説明することは、タイムリーであり好感が持てる。

環境のPDCAについては、中期5ヵ年計画の初年度(2008年度)における内容が、P7~P16にコンパクトにまとめられている。地球温暖化に関わるCO₂削減については、経済不況による生産量の低下などの要因もあるが、2008年度は2007年度比で8.2%も削減されている。しかしエネルギー原単位が悪化しているのこの点は割り引いて評価する必要がある。地球温暖化問題については世界も、日本も、大幅削減に向けて大きく動き出している。今後、CO₂削減量は、企業評価の大きな柱となると考えるので、一層の削減努力を期待する。また産業廃棄物の削減については、化学製品メーカーであるという困難さを乗り越え、発生量、最終埋立量を削減し、最終埋立率2012年度1%以下の目標達成を期待する。

社会性報告については、リスク・コンプライアンス体制について詳しく紹介している。特に内部統制システムの充実とともにリスク・コンプライアンスホットライン制度や全社員に携帯カードを配布し徹底を図っている点に好感が持てる。そのほかにお客様とのかかわり、株主・投資家とのかかわり、従業員とのかかわり、地域社会とのかかわりについて、トピックスを含めながらコンパクトにまとめている。

最後に本レポートに示された行動内容について、要望したいことについて意見を述べる。

■貴社は温暖化防止としてCO₂排出量削減とエネルギー原単位削減の中期目標(2012年度)を掲げているが、これから企業に求められるのは総量の削減であり、気候変動についてはここ10年の取り組みが最も重要といわれているので、わが国の中期目標(2020年度)が制定された今日、2020年度をターゲットとした中長期計画の策定・検討を期待したい。

■また環境面、社会面ともに、さらなるPDCAマネジメントの充実と見える化を進めていただきたい。具体的には、難しい中間化学材料素材メーカーの環境・社会行動PDCAマネジメントを充実し、その内容を分かりやすく、社内および企業を取り巻くステークホルダーに伝えるPDCAマネジメントの見える化の進展を期待したい。

今回の「環境・社会報告書2009」は貴社の行動内容を真摯に表した、的確な報告書となっている。今後は貴社の事業特性を生かし、自社環境負荷の一層の削減と貴社環境配慮製品による一歩踏み込んだ低炭素社会への貢献を期待する。

また2020年度をターゲットとしたCO₂排出量の中長期目標の策定、PDCAマネジメントの充実と見える化の進展など、ご指摘いただきました事項は、ひとつひとつ確実に改善に取り組み、環境保全活動および社会活動のレベルアップを図るとともに、その内容を



荒川化学工業株式会社
品質環境保安室長
長田 正

しっかりとステークホルダーに伝える環境・社会報告書作りを進めて参ります。今後ともご理解、ご支援の程お願い申し上げます。